

講義名	対)観光産業論		
担当教員	柏木 千春		
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
主題と概要	<p>観光客が観光を目的に消費するお金は、観光事業者だけでなく多様な事業者（農水産業、加工業、商業、製造業、その他のサービス業など）に循環させることができるという特性から、すそ野の広いビジネスネットワークを形成します。こうした観光の力を集める中核的な役割を担うのが、観光産業です。観光産業は、日本の国際競争力強化と地域経済活性化の力基を握る産業として期待されています。また、同時に、時代の急速な変化に適応するための既存ビジネスモデルの変革も迫られています。</p> <p>本講義では、観光関連産業の中核を担う業界を中心に、経営環境の現況、既存のビジネスモデル、サービスマネジメント方式と背後理論について学習します。世界的な感染症の広がりによる観光産業の危機的な状況と、その先の新たな国際観光交流時代の業界のあり方についての議論も深めていきます。</p>		
到達目標	<p>本講義の、到達目標は以下の通りです。</p> <p>(1)観光ビジネスに関わる理論がわかるようになる (2)観光産業におけるビジネスモデルを理解できるようになる (3)観光産業の課題を特定し、課題解決の方向性を提示することができるようになる (4)観光産業を取り巻く環境の変化（現在から10年後までも射程として）を捉え、ビジネス拡大の可能性に関心を持つことができるようになる</p>		
提出課題	<p>Ryuka Portalにて各回の課題を提示します。</p> <p>課題の未提出回数が5回以上あった場合、単位認定できません。</p>		
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック	<p>講義時間内に講評・解説を行う。</p>		
評価の基準	<p>各回の課題に対する評価(45%)、定期テスト(40%)、授業参加意欲度(講義中の発言内容)(15%)で判断します。</p>		
履修にあたっての注意・助言他	<p>Ryuka Portalのレポート情報にて各講義の課題を提示します。</p> <p>課題の未提出が5回以上あった場合には、単位認定審査資格を得ることはできません。</p>		

教科書	『1からの観光事業』（2016年）、高橋一夫他編著	碩学舎	2592	978-4-502-17281-6
プリント資料及び参考文献	各テーマに応じたタイムリーな情報、問題提起のための資料を配布いたします。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション講義で使用する用語の定義 旅行業のビジネスモデル 観光事業のイノベーション 楽天トラベルによるオンライン旅行販売 観光事業のグローバル経営 H.L.S.の海外進出における国際経営 観光と観光ビジネス 消費者の意思決定過程とエクスペディアのマーケティング活動 旅行業 法人営業のソリューションビジネスへの進化 宿泊業 (1)収益性と生産性を高めるためのマネジメント 宿泊業 (2)星野リゾートによるマネジメント 航空輸送業 (1)価格のマネジメント 航空輸送業 (2)LCCのビジネスモデル 鉄道事業 (1)交通サービスの価値 鉄道事業 (2)九州の取り組む観光列車 テーマパークによる経験価値とサービスマネジメント 観光ビジネスの兆し 未来志向で考える まとめ 			
授業形態（アクティブ・ラーニング）	<input type="checkbox"/> ア：PBL（課題解決型学習） <input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション <input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） <input type="checkbox"/> エ：グループワーク <input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	<p>講義前は、テキスト各章にある「考えてみよう」に、講義終了後はGoogle Formを使った「理解度確認テスト」にそれぞれ取り組んでもらいます。自回の講義前後で、4時間程度の学習時間を要します。</p>			
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<ul style="list-style-type: none"> 到達目標(1)と(2)の達成によって、経営構造の理解と既存ビジネスモデルの限界や今後の可能性を考える枠組みを養うことができます。 到達目標(3)の達成によって、目標(1)、(2)の力を基盤としながら、課題解決の展開イメージを描き、実践に結び付けることができるようになります。 到達目標(4)の達成によって、自ら考え挑戦することができるようになる。 			
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	<p>対面講義ならではのディスカッション、ペアワークを取り入れます。</p>			
実務経験の有無及び活用	<p>旅行会社勤務経験あり。自観光関連産業の実態、ビジネスモデルを最新事例から紹介、解説を加えます。</p>			
備考	<p>授業の進捗により、内容を変更することがあります。</p>			